

[大聖院アートミッション] 公演等のご案内

2025年5月17日（土）18：30開演 会場：大聖院特設ステージ

プログラム

第一部

I～＜初夏を愛でる唱歌＞約25分

- 1～「若葉」 ～～♪あざやかな緑よ～～全員
- 2～「鯉のぼり」 ～～♪いらかの波と～～大西
- 3～「背くらべ」 ～～♪柱のきずは～～野久尾
- 4～「子鹿のバンビ」 ～～♪子鹿のバンビはかわいいな～～大西&野久尾
- 5～「さくら貝の歌」 ～～♪麗しきさくら貝一つ～～本岩
- 6～「浜辺の歌」 ～～♪あした浜辺は～～山崎
- 7～「夏の思い出」 ～～♪夏が来れば思い出す～～
- 8～「港」 ～～♪空も港も～～全員・・・広島に因む歌。
- 9～「夏は来ぬ」 ～～♪卯の花におう垣根に～～全員

II～＜声明；大聖院＞（20分前後）

・・・・・・休憩（15分）

第二部

オペラショウ「観音抄」・・・オペラ季節館&大聖院・声明（50分）

出演者

<司祭：本岩孝之> ～～メッセージ

この作品の出演、三度目の機会を宮島で迎えることを大変誇りに思います。

日本人にとって かけがえの無い寺社であるものに関わらず、それをテーマにした音楽劇作品は極めて稀で「観音抄」の上演の度に身が浄められる自分があることを気付かされます。

大聖院をネットで拝見してその圧倒的な仏像群と営々と、そこで時を過ごし心身を研ぎ澄まして来た遠い過去の人々に思いを致し、深く頭を垂れる思いです。

音楽・芸術の力＝人々を癒し、心身を鼓舞するー。

人の力＝平和と安寧、しかし、災いもまねく不安定な存在。

神の力＝未来永劫、森羅万象、永遠に見えざるも確かな存在。

さて、私に何ができるか？吉田座主の眼鏡の奥を観つつ…。

< 略歴 >

京芸術大学声楽科卒・同大学院古楽科 バロック専攻修了。カウンターテナー、ピアニスト。多様な声楽コン常に上位入賞。国民文化祭、Jリーグ、大相撲等のイベントで度々国歌独唱。CD多数。

< 母・観音様：山崎陶子 > ーメッセージ

「観音抄」の出演初めてです。京都仁和寺の映像を観て大変感動しただけに自分が参加できることを大変嬉しく思っています。

物語にあるように私たちにいつ災難が降り掛かってくるか誰にもわかりません。そんな悪境におかれた時、神仏に救いを求める自分があることを気づかされます。

母と観音様の二役。愛しい娘をおいて旅立つ母の苦しみ、哀惜。娘を天から果たして見守って上げることができようか？

翻って今度は観音様の役。神とは仏とは？何もわからない私が果たして演じ切ることができのでしょうか。不安と臨むことの楽しみで、心はせめぎ合い。

神仏、祈りの島。そして日本を代表する観光地。

正に心引き締まる思いで、心が高鳴ります。

< 略歴 >

東京大学文学部卒。武蔵野音大音楽科を主席で卒業後、同大学院修了。文化庁在外研修・イタリア留学。大阪国際声楽コン1位。近年、様々なオペラで主役を演じる等、最も脚光を浴び歌手の一人。

< 物語 >

この国に、やっと京都ができ、鏡さえなかった昔のこと。父母と娘あやめの小さな家

族は愛に溢れた日々を過ごしていました。

しかしある日、母に突然の病魔。必死の看病と快復を願って観音様参り。されどやがて母は天への旅。村の有力者の薦めで継母が来るも、あやめへの執拗ないじめ、そして財産の食い尽くし。父も毘にはめられて行き方知れず。絶望のあやめ。生きるすべを失ったあやめは深い森の池に。身を投じようと鏡池に身を乗り出すと、水面に母の顔？そしてどこからともなく観音様の御声。さらに地にこだまする観音経。あやめ、そして父の運命は・・・

物語の原点は、新潟県旧松之山町の鏡ヶ池。ここに万葉歌人大伴家持が妻を娶って住んでいたという。そこで秘められた物語が「松之山鏡伝説」。

それは能、狂言、落語にもなった名作伝説。

<父・村主> 東浩市

東京芸術大学声楽科卒。飯塚声楽コン1位。オペラ声楽新人コン2位

<娘のあやめ> 野久尾智美

昭和音楽大学・同大学院修了。学長賞受賞

<継母> 大西恵代

東京芸術大学・同大学院修了。新国立劇場研修所修了

<オペラ季節館>

1991年、オペラショウ「オズの模倣使い」(三越劇場)の初演で創設。

以後、多様な作品を制作し、全国の自治体、新聞社、コカ・コーラウエスト等の主催で全国公演。広島厚生年金開館でも度々公演。2008年には文化庁の派遣で日伯100周年でブラジル各地で公演。

2024年有楽町朝日ホール開館40周年でオペラショウ「ラ・ボエーム」を6回公演。

オペラ以外にも、永年、人間国宝の野村万作、萬斎による狂言の企画を手がける他、熱海市の市政80周年記念事業の制作等、地方創生にも尽力。

オペラ歌手、器楽奏者、ダンサー等100人以上のアーティストが参画。

<作・作曲・演出> 伊勢谷宣仁

国立音楽大学卒。永年、日本を代表するオペラ団体の要として多くの作品を企画・制作、あるいは演出。世界各国の舞台芸術を視察・研修。

作曲・演出作品多数。昭和音楽大学・同大学院元教授。